

日本レクリエーション協会課程認定校全国研究集会における特別報告 ～「震災支援」に関する平成国際大学の取り組み～

高野 千春

スポーツ福祉政策コースを持つ本学は、法学部としては唯一の日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校である。全国360校の課程認定校からなる研究連絡会議では、日頃の研究・教育活動の成果を公開し共有すること、レクリエーション支援者を教育し、社会へ輩出する意義や効果について協議することを目的として、毎年全国研究集会を開催している。関東甲信越ブロックが担当する『平成24年度全国研究集会』は、6月2日（土）、3日（日）に大妻女子大学多摩キャンパスにて開催され、今回は開会セレモニーに続いて「震災支援」に関する特別報告が行われた。

東日本大震災から1年2ヶ月が経過し、震災支援はハード、ソフトの両側面からの継続的な支援が必要とされている。継続的な支援の必要性を、全国の課程認定校指導者と共有しようとの趣旨から、「課程認定校からの震災支援」と題して仙台大学が、「関東甲信越ブロックからの震災支援」と題して平成国際大学が、これまでの学生の支援活動と今後の取り組みについて報告した。本学の報告内容は、以下のとおりである。

平成国際大学の震災支援は、東日本大震災により甚大な被害を受けた福島県双葉町民を町役場機能ごと加須市が受け入れることが決定した直後に、同じ加須市内の大学としてマンパワーを生かした支援を加須市に申し出たことから始まった。法学部でありながら運動部の活動に力を入れている本学は、その運動部の組織力を活かして、緊急かつ大規模な支援を行うことができた。旧騎西高校への町民およそ1400名の引越しに際し、町民の誘導、荷物の運搬、バス・車の誘導、布団・畳・ソファの運搬等に、述べ500名を超える学生が参加し、積極的に活動した。運動部を中心とした学生達の働きぶりは、疲労と不安でいっぱいの方々の町民の方々だけでなく、他の市民ボランティアの方々も元気づけた。この活動をきっかけに本学にもボランティアサークル（学生団体）が結成され、その後はサークルの学生を中心に他の学生団体と協力しながら、騎西高校および加須市周辺に避難されている方々との交流が続いている。

震災直後は支援物資や環境整備のためのマンパワーを提供するという一方的な支援活動であったが、2～

3ヶ月が経過すると状況が少しずつ変わってきた。町ぐるみの大規模な避難所として注目を浴び、さらに交通の便や放射能被害の心配が少ない場所であるため、支援物資やさまざまな活動プログラムの提供が飽和状態になってきたことを学生達は実感し、“今本当に必要とされていることは何か”を考え始めた。週1回“御用聞き”のように騎西高校に足を運び町民や役場職員と言葉を交わす中で、「各家庭で作っていた漬物やおやつが避難所では作れない」「朝目覚めたときに今日はアレをしよう、コレをしなきゃという事がないのがとても辛い」「ありがとうと言うばかりでなく他人に喜ばれる事がしたい」といった声がかきかけとなり、秋の大学祭での出展・販売を目標に、双葉町の高齢者の方々に「柏餅」や「布草履」の作り方を教えていただくことになった。このように、学生達の支援活動の考え方は、それまでの“提供”から“交流”に変わってきた。2週間に1回、2時間程度の無理のないペースで学生に教えながら一緒にモノづくりをする時間は、高齢者の方々にとって大きな楽しみとなり、回を重ねる毎に集まる人も増え、サロンのような形となった。学生にとっても大学祭の準備に協力していただきながら、貴重な体験談を聞くことができ、双方にとって give and take の関係を程よく保った活動となった。

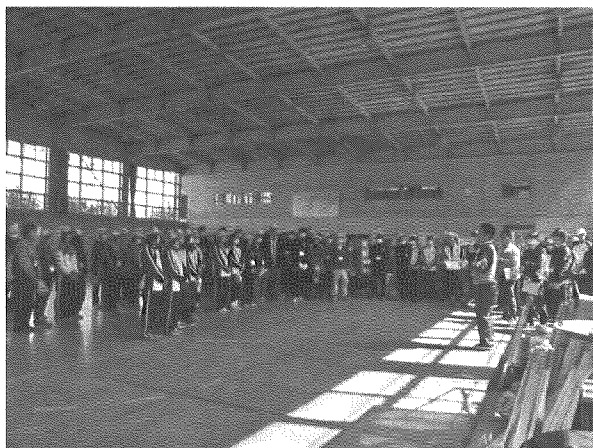
また、多くの学生のボランティアに対し感謝の気持ちとして、「3・11過去・現在・未来～双葉町長から私たちへのメッセージ～」と題し、井戸川克隆町長の講演会が行われた。本学は公務員志望の学生が多いことを踏まえ、震災への対応を交えつつ公務員としての心構えを語るとともに、今後“被災者の自立”のためには必要最低限の援助で十分だとの言葉に、あらためて震災支援活動について考える機会となった。

その後も、騎西高校だけでなく加須市内に避難している方々との交流を続ける中で出てくる声をヒントに、加須市民まつりや、大学イベント（大学祭、クリスマス・パーティー等）参加、美術館見学、お茶会開催、受験生の学習相談など、ともに楽しみながら活動を続けている。

本学のこれまでの震災支援の活動は、大規模なマンパワーでの支援から始まり、被災者と直接顔を合わせ言葉を交わすことで少しずつ信頼関係が築かれ、そこ

から生まれた活動を無理のないペースで一緒に楽しむことで継続されてきた。そして、これらの活動は一方だけではなく双方が感謝し、支えあう活動となっている。放射能汚染という先の見えない大きな問題を抱え、被災者の避難生活が長引くのは明らかである。法学部に福祉政策コースを持つ大学として、また運動部に所属する学生が多い近隣大学として、いつでも緊急かつ

大規模なマンパワーの支援ができる体制を整えつつ、さらなる支援として、被災者を含めた加須市民への地域貢献も検討したい。もちろん、これまでと同様に何気ない会話から生まれる活動も大切にしていきたいと考えている。



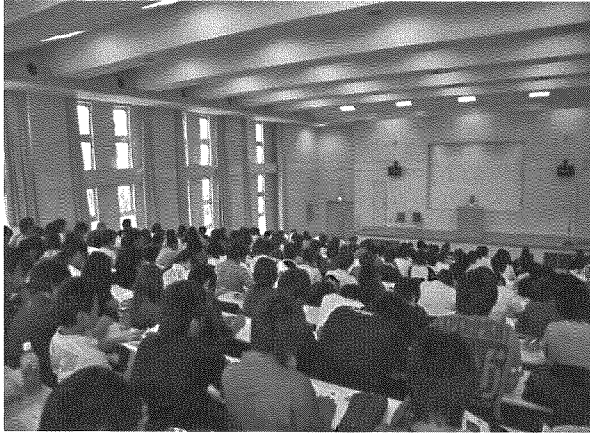
旧騎西高校での物資運搬



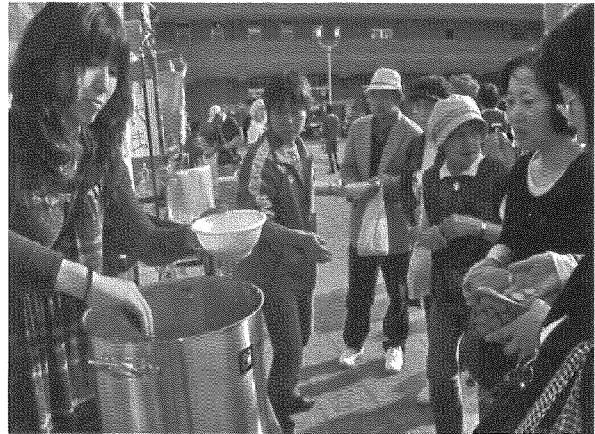
柏餅づくり



布草履づくり



井戸川町長の講演



大学祭での模擬店



騎西高校でのお茶会



子どもたちと遊ぶ